

合計特殊出生率って？

統計情報部が公表している統計の一つに「人口動態統計」というものがあります。出生・死亡・死産・婚姻・離婚という5つの人口動態事象を集計・公表しており、今後の人口の動向を分析する上で大変重要な統計です。



合計特殊出生率とは？

1人の女性とその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当します。

15歳～49歳までの各歳の女性に関する年齢別出生率を求め、合計することによって、算出できます。

単なる出生率（母の年齢を一括した出生数と全人口の比）は、女性の年齢構成によって、影響を受けてしま

ますが、合計特殊出生率は年齢構成の影響を受けにくい指標です。ですので、年次や地域間で出生動向を比較するのに適した指標として幅広く利用されています。

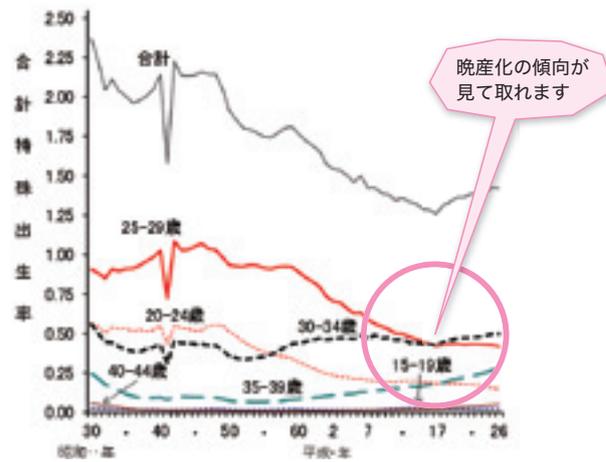
$$\text{合計特殊出生率} = \sum_{x=15}^{49} \frac{x\text{歳の母からの出生数}}{x\text{歳の女性人口}}$$

最近の動向は？

合計特殊出生率は、平成17年に過去最低の1.26を記録した後は上昇傾向にありましたが、平成26年は1.42となり9年ぶりに低下しました。

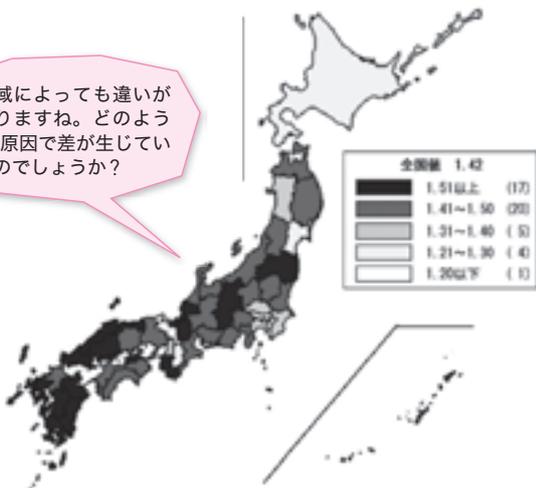
合計特殊出生率の年齢階級別内訳を見ると、20～29歳では低下しているものの、30歳以上で上昇しました。

合計特殊出生率の年次推移（年齢階級別内訳）



都道府県別合計特殊出生率（平成26年）

地域によっても違いがありますね。どのような原因で差が生じているのでしょうか？



分析は？

平成18年以降、出生数は減少しているものの、合計特殊出生率は上昇傾向にありました。

その背景の一つに、晩産化という現象があります。世代による出産時期の傾向の違いが合計特殊出生率の上昇として現れていることが、上のグラフからも推測できます。

その他、出生数の動向を女性人口の増減と年齢構成の変化の要因から考察するなど、多面的な分析を行っています。

統計情報部の日々

統計情報部自体が「緑の下の力持ち」といった部署ですが、数理職員はさらにその土台（あるいは裏方）の役割です。統計数理のプロとして相談を受けることも多いですが、まわりの方々と視点や前提知識が違うためか、必ずしも意見が受け入れられる訳ではなく、報われない気持ちでフラストレーションを感じることもありますよ。

でも、納得してもらおうと努力する過程で、多様な視点に気づいたり、自分の知識や説明能力もアップしたりと成長を実感できますし、無事公表にこぎつけた時には、官庁統計の構築という巨大プロジェクトの歯車となれたことに、ささやかな幸せを感じます。

（小梶美幸（平成26年入省））

